

たしかな統計 しあわせづくり まちづくり —平成7年度「統計の日」ポスターの標語が決定—

統計思想の一層の普及啓蒙を図り、統計に対する国民の関心と理解を深めるため、国は10月18日を統計の日と定めています。

統計の日は、日本で最初の近代的生産統計である「府県物産表」に関する太政官布告が公布された明治3年9月24日(太陰暦)を現在の太陽暦に換算して、10月18日としたものです。
(昭和48年7月30日閣議決定)

総務庁統計局では、「統計の日」のポスターに使用する標語について、統計局・統計センターの職員のほか、各省庁、都道府県及び市町村の統計

担当職員並びに統計調査員から毎年募集しており、本年は全国から2,434点の作品が集まりました。(内訳は、国が141点、都道府県が608点、市町村が342点、統計調査員が1,343点でした。)

6月28日に開かれた審査委員会で入選作品6点(特選1点、佳作5点)が決定されました。

なお、この標語は「統計の日」のポスターに使用されるほか、各種印刷物に使用され、統計の啓蒙活動に一役買うこととなります。

来年も更にすばらしい標語が集まることを期待するとともに、より一層統計に対する関心、理解を深め、統計の有効利用を促進していきたいものです。



特 選

「たしかな統計

しあわせづくり

まちづくり」

京都府網野町企画課

岸 本 裕 子

10月18日 《統計の日》

統計調査にご協力ください。

総 務 庁

平成7年度「統計の日」ポスター

佳作 (五十音順)

「現在を知り 未来へ生かそう みんなの統計」

岐阜県谷汲村総務課 小森英孝

「統計で 日本が見える 世界が見える」

広島県企画振興部統計課 田房妙子

「統計は 明日へと導く ナビゲーター」

岐阜県美濃加茂市統計調査員 藤吉美津子

「統計は 情報社会の必需品」

大阪府企画調整部統計課 平井克彦

「1人1人の協力が 国を動かす 数字に変わる」

山梨県竜王町統計調査員 石川弘美

(統計課・普及指導グループ)

'96県民手帳

平成
8年版

かくれたベストセラー 県民必携の生活手帳

申込受付中

■ポケット版

(大きさ8cm×12.5cm鉛筆付)

ねだん(1冊) **350円** (税別)

■大型版

(大きさ9cm×14.5cm)

ねだん(1冊) **470円** (税別)



●差込式住所録付き

編集・発行 / 茨城県統計協会
TEL 029-221-5505 FAX 029-288-0961

県のさかな「ひらめ」に決定

県民に茨城の美しい海や川と、水産業の理解と親しみを深めてもらうとともに、本県産魚介類のイメージアップを図るため、8月の新栽培漁業センターの竣工に合わせて、県のさかなをこのほど制定しました。

制定に当たっては茨城大学の橋本学長を会長とする県のさかな選定委員会を設置し、まず、四季毎に旬のさかな及び淡水のさかなの候補をそれぞれ3種、合計15種選び、県民から公募を行いました。そしてこの結果をもとに選定委員会で旬のさかなを4種、淡水のさかな1種を選定しました。

県のさかなは、この中から県民からの応募数が多く、水戸市の消費量が県庁所在地の中で一番多いこと、今後、県が最も力を入れる「さかな」であることなどの理由から庁議で「ひらめ」に決定しました。今後、シンボルマークを県民から公募して決め、各種イベント、水産関係者の名刺や刊行物などに印刷して、ひらめの銘柄化等本県水産業の振興に役立てたいと考えています。

なお、選定委員会において決定された旬のさかなは、春が「鹿島灘はまぐり」、夏が「かつお」、秋が「ひらめ」、冬は「あんこう」で、淡水のさかなは「わかさぎ」であります。

表—1 「旬のさかな」・「淡水のさかな」の選定

区 分	種 類	選 定 理 由
旬のさかな	春 鹿島灘はまぐり	① 応募数が最も多い。(54%) ② 生産量は全国第1位で全国の59%を占めているとともに沿岸漁業の重要種である。 ③ 栽培漁業センターでの中心的な対象種であるとともに漁業者の自主的な資源管理が進んでいる。
	夏 か つ お	① 応募数が最も多い。(43%) ② 県庁所在地の中で1世帯当たりの消費量は全国第3位と多い。
	秋 ひ ら め	① 応募数が多い。(37%) [1位はさんま39%] ② 本県沿岸漁業での生産額は第3位と多い。 ③ 沿岸漁業の重要種であるとともに栽培漁業センターでの中心的な対象種であって、漁業者の自主的な資源管理が進んでいる。
	冬 あ ん こ う	① 応募数が最も多い。(64%) ② 観光面で茨城の「あんこう」は古くから全国的に有名である。

表—1 つづき

区 分	種 類	選 定 理 由
淡 水 の さ か な	わ か さ ぎ	① 応募数が最も多い。(62%) ② 生産量は全国の5分の1と多く、煮干し、佃煮等水産加工品として名高い。 ③ 人工孵化放流等資源の増大に努めている。

表—2 「県のさかな」の決定

県 の さ か な	選 定 理 由
ひ ら め	1. 応募数が多い。(37%) 2. 県庁所在地の中で1世帯当たりの消費量は全国第1位である。 (平成5年総務庁家計調査年報より) <ul style="list-style-type: none"> • 全国平均消費量 173g • 水戸市消費量 526g 3. 秋～冬(10～3月)に本県で漁獲されるひらめは、「常磐もの」として卸売市場で高く評価されている。 <ul style="list-style-type: none"> • 10～3月活ひらめ価格 (平成5年東京中央卸売市場年報より) 全国平均 4,971円/kg 茨城産 6,666円/kg 4. 新栽培漁業センターでのひらめ種苗計画生産量は全国第2位で、今後、県が最も力を入れていく魚種である。 <ul style="list-style-type: none"> • 北海道 220万尾 (全国第1位) • 茨城県 200万尾 (全国第2位) • 青森県 200万尾 (全国第2位) 5. 本県沿岸漁業の重要種で漁業者による自主的な資源管理が進められている。 <ul style="list-style-type: none"> • 平成7年1月から30cm未満のひらめは、「獲らない」「売らない」「食べない」の3ない運動を実行している。

(水産振興課)

県内の高齢者は41万6,700人

— 県総人口の14.0% —

茨城県常住人口調査の結果をもとに、平成7年9月15日現在の県内の高齢者の数を推計すると、416,700人となり、県内総人口に占める割合は14.0%です。男女別では、男性が173,100人、女性が243,600人となり、女性が70,500人男性を上回っ

ています。

(表-1)

大正9年以降、本県の高齢者の数は確実に増加しており、老年人口の割合は昭和30年ごろまでは6%前後、昭和60年に10%を超え、平成7年には14.1%となっています。(表-2)

表-1 男女別老年人口(平成7年9月15日現在)

— 茨城県 —

区分	総人口	老年人口(65歳以上)			
		総数	65～74歳	75～84歳	85歳以上
計(人)	2,965,900	416,700	254,500	129,400	32,800
男(人)	1,482,900	173,100	114,000	48,700	10,400
女(人)	1,483,000	243,600	140,500	80,700	22,400
割合(%)	100.0	14.0	8.6	4.4	1.1
性比	100.0	71.1	81.1	60.3	46.4

(注) 1. 茨城県常住人口調査結果をもとに、平成7年9月15日を推計したものである。
2. 性比=男子人口÷女子人口×100

表-2 老年人口の推移(各年10月1日現在)

— 茨城県 —

年	老年人口	老年人口割合	対前昇率	県総人口	対前昇率
項目	人	%	%	人	%
大正 9	83,531	6.2	—	1,350,400	—
14	85,713	6.1	2.6	1,409,092	4.4
昭和 5	86,852	5.8	1.3	1,487,097	5.5
10	88,951	5.7	3.8	1,548,991	4.2
15	93,255	5.8	4.8	1,620,000	4.6
20	110,012	5.7	18.0	1,944,344	20.0
25	112,529	5.5	2.3	2,039,418	4.9
30	122,899	6.0	9.2	2,064,037	1.2
35	134,229	6.6	9.2	2,047,024	△0.1
40	148,362	7.2	10.5	2,056,154	0.4
45	169,267	7.9	14.1	2,143,551	4.2
50	196,380	8.4	16.0	2,342,198	9.3
55	236,485	9.2	20.4	2,558,007	9.2
60	278,503	10.2	17.8	2,725,005	6.5
平成 2	338,799	11.9	21.7	2,845,382	4.4
7	417,200	14.1	23.1	2,968,500	4.3

(注) 1. 平成7年は推計。
2. 老年人口割合=老年人口÷総人口×100

平成7年7月1日現在の本県の総人口に占める高齢者の割合は県平均で14.0%です。

地域別にみると、県北地域15.2%、県央地域14.8%、鹿行地域13.9%、県南地域12.3%、県西地域14.7%となっています。

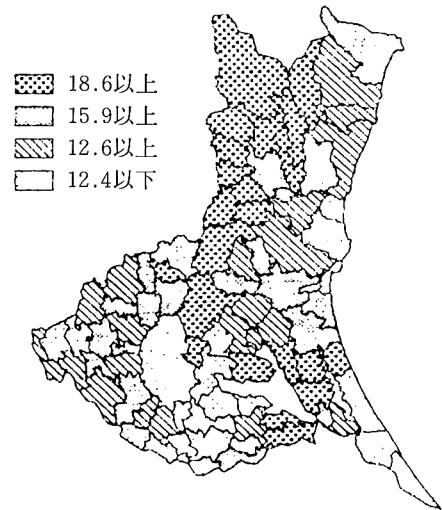
また、市町村別では、水府村、緒川村、美和村、里美村、山方町、大子町、金砂郷町で25%を超え、高齢者の割合が高くなっています。

他方、守谷町、神栖町、取手市、牛久市、荃崎町、総和町では10%未満となっています。

(図-1)

〔統計インフォメーションNo.48から〕

図-1 各市町村老年人口割合



参 考：県内市町村別老年人口割合（平成7年7月1日現在）

茨城県	14.0	八郷町	19.4	猿島町	16.8	友部町	13.2
県北地域	15.2	新治村	19.1	関城町	16.7	水戸市	12.9
県央地域	14.8	常北町	18.9	茨城町	16.6	潮来町	12.9
鹿行地域	13.9	玉造町	18.8	岩間町	16.0	伊奈町	12.6
県南地域	12.3	大和村	18.7	内原町	15.9	土浦市	12.4
県西地域	14.7	笠間市	18.6	下妻市	15.8	波崎町	12.1
水府村	29.0	河内村	18.5	玉里村	15.7	美浦村	12.1
緒川村	27.8	真壁町	18.4	高萩市	15.6	阿美町	11.6
美和村	26.9	常陸太田市	18.2	十王町	15.3	利根町	11.6
里美村	26.6	大洗町	18.2	小川町	15.2	竜ヶ崎	11.4
山方町	26.5	大宮町	18.2	那珂町	15.0	藤代町	11.4
大子町	25.8	旭村	18.1	石下町	15.0	東海村	11.4
金砂郷町	25.6	岩瀬町	18.1	谷和原村	14.9	つくば市	11.3
御前山村	24.8	瓜連町	18.1	五霞村	14.8	ひたちなか市	11.0
七会村	23.8	牛堀町	18.0	岩井市	14.6	鹿嶋市	11.0
桂村	23.1	新利根村	17.8	結城市	14.5	三和町	10.8
桜川村	21.5	鉾田町	17.7	境町	14.4	千代田町	10.4
東村	20.8	八千代町	17.5	下館市	14.2	総和町	9.9
大洋村	20.3	明野町	17.5	美野里町	13.8	荃崎町	9.9
北浦村	20.0	千代川村	17.0	石岡市	13.7	牛久市	9.9
出島村	19.9	協和町	17.0	古河市	13.6	取手市	9.5
麻生町	19.8	北茨城市	16.9	江戸崎町	13.5	神栖町	8.8
		水海道市	16.8	日立市	13.5	守谷町	8.7